

## 議事録

令和7年度神奈川県献血推進協議会 開催結果（令和8年2月25日～3月11日 書面開催）

### 1 議題 令和8年度神奈川県献血推進計画（案）について

承認する 18人／承認しない 0人

議題は承認されました。

### 2 その他

各委員から、次のとおりご意見、ご質問が寄せられました。

いただいた貴重なご意見等は、今後の献血推進の参考とさせていただきます

#### 【一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会：鳥越委員】

○ 一点、資料4-1 献血推進計画（案）に関してです。

2.（1）（イ）の生徒・学生に対する普及啓発ですが、年度の中での献血セミナーなどのスケジュールなどを引き続きご連絡いただければ幸いです。

また生徒・学生が作成した献血普及啓発に関するポスターセッションなどがあれば、各中高で共有できればと思います。

○動画（「コンテスト」とまでは行かないまでも）総合的な探究の時間での成果物を発表している学校さんなどがあれば教えていただければと存じます。

神奈川県私学中高協会の校長会でも引き続き来会者として事業内容などの紹介などお願いできればと思います。

#### 【事務局回答】

高等学校等での出前授業となる献血セミナーの実施については、引き続き各教育委員会及び神奈川県私立中学高等学校協会等にて依頼をさせていただきます。

また、神奈川県、日本赤十字社神奈川県支部および神奈川県赤十字血液センターでは、若年層への献血思想の普及を目的として、平成10年度から平成27年度まで小・中学生を対象とした「献血の絵」ポスター展を開催していました。令和9年度に第63回献血運動推進全国大会が神奈川県で開催されることから、令和8年度には、本県が主催し、神奈川県赤十字血液センター等の後援によるポスターコンクールの実施を予定しています。

なお、令和7年7月28日（月）から11月7日（金）まで、厚生労働省及び日本赤十字社主催により「献血普及啓発ボランティア活動発表会」が開催されました。本発表会の動画部門において、川崎市立川崎高等学校「まきまきゼミ」が応募し、厚生労働大臣賞を受賞しています。当該動画は厚生労働省公式YouTubeチャンネルにてご覧いただけます。

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_68910.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_68910.html)

#### 【公益社団法人神奈川県薬剤師会：八鍬委員】

○<資料4-1 P2 生徒・学生に対する普及啓発>

学校薬剤師が高校等で行っている薬物乱用防止教室の機会を活用し、献血に関する普及啓発を

## 議事録

検討してはどうか。

○<資料 4-2>令和 8 年度は血漿成分献血の増加を目標としているが、成分献血は全血と比べ献血間隔が短く高頻度で協力できる一方、主に献血ルームでの実施に限られている。

目標達成に向け、成分献血の実施機会の拡充について検討してはどうか。

所要時間等の課題はあると考えられるが、将来的に献血バスでの実施可能性も検討の余地があるのではないか。

### 【事務局回答】

学校薬剤師が高校等で行っている薬物乱用防止教室は、学校からの「薬物乱用防止の話をしてほしい」という要望を受けて実施しているため、それ以外の話をする事については慎重な検討が必要と考えます。ご意見は今後の施策の参考とさせていただきます。

また、神奈川県赤十字血液センターでは、かつて献血バスにおいて成分献血を実施していましたが、現在は献血バスでの採血を全血献血に一本化し、成分献血につきましては、すべて献血ルームにおいて実施しています。

このような体制へ移行した背景には、主に次の二点があります。

第一に、採血効率の観点です。献血バスにおける採血ベッド数は4床と限られており、成分献血の場合、ベッドの占有時間の制約から、1人当たりの採血時間はおおむね30分から40分程度が上限となります。その結果、献血者の体重にもよりますが、採取可能な血漿量は300mLから400mL程度にとどまります。

一方、400mL全血献血では、採血時間はおおむね5分から10分程度であり、得られる血漿量は約240mLとなります。400mL全血献血に3人の方にご協力いただいた場合、ベッドの占有時間は成分献血お一人分とほぼ同等である一方、採取できる原料血漿量は合計で約720mLとなり、より効率的な採血が可能となります。

加えて、赤血球製剤の需要は年々増加しており、400mL全血献血を推進することは、赤血球製剤の安定供給と原料血漿の確保の双方を図る上でも有効であると考えております。

第二に、成分採血装置に関する課題です。血漿成分採血が可能なCCS装置については、既に製造中止が決定しており、今後導入が見込まれる後継機は大型化する見込みとされています。このため、将来的には献血バスへの搭載が困難となり、事実上、献血バスで成分献血を実施することが難しくなると想定しています。

以上の理由から、神奈川県赤十字血液センターでは、献血バスでは全血献血を、献血ルームでは全血献血及び成分献血を実施するという役割分担を行い、現在の体制を整えております。

なお、ご指摘のありましたとおり、今後は血漿分画製剤の需要増加が見込まれていることから、献血ルームの拡充や増設を視野に入れ、必要な準備を進めていきます。

### 【公募：安藤委員】

○令和9年度第63回献血運動推進全国大会の神奈川県開催について

約47年ぶりの開催で前回から時代が大きく変わった中で、神奈川県献血推進協議会の委員としてやるべきこと、協力できることがあればおっしゃってください。日程が決まるのもいつ

## 議事録

になるか今後わかり次第次回会議にでも教えていただけますと幸いです。

### 【事務局回答】

第 63 回献血運動推進全国大会の神奈川県開催については令和 8 年 7 月頃に対面での献血推進協議会を開催し、追加のご報告をさせていただく予定です。引き続き本県の献血推進にご協力くださいますようお願いいたします。

### 【特定非営利活動法人アドバイザーネットワーク神奈川：藤澤委員】

#### ○資料 2 p.2～11 2- (1) 献血に関する普及啓発活動の実施

フォロワー数が多く見込めそうなインスタグラム投稿を増やす等、様々な工夫を凝らして普及啓発活動に取り組まれていることを評価します。

献血が必要な理由について等、若年層の心に届き、行動につながる取り組みを今後も期待します。

#### ○p.6 エ 企業等における献血の推進 (ア) 企業・団体に対する取組の推進

社会貢献活動に取り組もうとする企業は増加していると思われます。

そのためかどうかはわかりませんが、献血協力企業・団体の開拓として、新規開拓数 26 会場（集団献血実施会場？）となっていることを評価します。

集団献血に関しては、社員・団体構成員の方にとって強制的な印象や負担感等が生じないよう配慮することが必要と思われますが、有効な取組として今後も取り組みを進められることを期待します。

また、集団献血以外に、献血協力者の社内評価、普及啓発広報等への協力などについても、推進されると良いと思います。

#### ○資料 3

献血運動推進全国大会開催の機会に、ポスター及び標語のコンクールを実施されることは、普及啓発活動として効果的と思われ、成果が期待できます。

神奈川県での第 63 回大会が無事開催され、盛会となりますよう祈念します。

### 【事務局回答】

若年層への献血の普及啓発活動については、高校生への献血キャンペーンのチラシ配布が従来 3 年生のみだったところ、今年度から 1～3 年生（全学年）へと配布対象を拡大しました。引き続き若年層に向けた普及啓発活動を積極的に継続します。

また、新規の集団献血については、引き続き献血協力企業・団体の開拓に努めるとともに、社員や構成員の皆様が負担感や強制的な印象を受けないよう十分配慮しながら進めていきたいと考えています。

なお、各企業における献血協力者の社内評価等についてのご意見は、今後の取組の参考とさせていただきます。

### 【一般社団法人神奈川県経営者協会：関口委員】

## 議事録

### ○資料 1

昨年も指摘させていただきましたが、前年比の見え方がわかりにくいです。

各年度の 12 月末時点での比較をしていることをもう少しわかり易く表記してもらえればと思います。たとえば表の R7 の献血者数の 261,143 も (261,143) と表記したほうが良いし、R6 の、(253,771) と (76.1%) と R7 の (261,143) と (77.2%) にハッチングをかけておくとか。

後は、資料概要での標記も、R7 年度の 12 月時点の数字は、目標を 100%となった前年度の 12 月時点の数字を上回っているが、目標達成率は若干下がっており、目標達成のためには最後の追い込みが必要、みたいな感じのコメントになるのではないのでしょうか。

### ○資料 2

昨年も指摘させていただきましたが、どの取組がどれだけ献血人数、献血量に貢献できたのか、の振返りがよくわかりません。効果測定が難しいことは理解いたしますが、まずは献血現場で献血者に簡単なアンケートを取るとか、献血の現場のスタッフにヒアリングをするとか、少しでも現場での評価を知り、よりよくしていくために改善を考えていただくことが必要ではないのでしょうか？

### ○資料 4-1

前年度もそうでしたが、毎年同じ内容が書かれています。せっかくの取組みですからよりよい結果につなげるために、現場の声を聴く、あるいは他県のベンチマークを行い好事例を取り入れる、などを通じて PDCA を回し少しでも改善に取り組んでいただきたいと思います。

#### 【事務局回答】

資料 1 については、ご助言のとおりハッチング等で資料のポイントを明確化したり資料概要の記載内容をより分かりやすくするなど改善に努めます。

資料 2 の効果測定の充実や資料 4-1 の記載の見直しについては、全国大会等の準備等他の献血関連事業の状況を総合的に勘案しながら検討します。

#### 【株式会社テレビ神奈川：近藤委員】

### ○計画 2-(1)

SNS、ホームページ等の広報手段を活用し、接触機会の拡大を図りながら発信されているものと認識しております。

引き続き、献血への行動につながる効果的な広報の展開をお願い申し上げます。

#### 【事務局回答】

広報活動については、献血に関する情報が多くの方の目に留まり、行動につながるものが重要と認識しています。そのため、SNS やホームページを活用した効果的な広報手段を引き続き積極的に展開したいと考えています。